

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2796100069 | | |
| 法人名 | 株式会社 ニチイ学館 | | |
| 事業所名 | ニチイケアセンター泉ヶ丘 グループホーム ニチイのほほえみ (1階) | | |
| 所在地 | 〒599-8253 大阪府堺市中区深阪713-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年7月17日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年11月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyoVoCd=2796100069-00&PrefCd=27&VersionCd=022 |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成25年8月28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回外部評価を受けた時から3分の2のスタッフが入れ替わってしまいました。この2年間は人員不足に悩み、スタッフにも入居者様にも迷惑を掛けています。入居者様に安心・なじみを求めるグループホームにとってスタッフの入れ替わりは痛手です。今現在もスタッフ・入居者様がお互いに『馴染みの関係』になれるように頑張っている真っ最中です。ただホームの理念『思いやりを大切に、その人の世界に寄り添います。その人の喜怒哀楽を大切にできるアットホームな場所を目指します』は、新しいスタッフにも浸透しつつあるように最近感じています。入居者様が自然と自我を出せる、そして私たちが好きな事を言い合えるそんな関係を目指しています。ホームは第二の我が家です。家庭的で臨機応変な柔軟な対応ができるホーム作りを今後も目指します。あと、3分の2のスタッフが入れ替わった中、スタッフ自身がアイデアを出し率先してホームの運営に関わることができる環境作りが、今のホームの課題です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所では、利用者に我が家のように暮らしてもらいたいとの思いから、笑顔だけではなく、喜怒哀楽が表せるよう理念に掲げ支援しています。日中は全ての出入り口の鍵は掛けず、出かけた時は見守るよう心がけています。2年前から始めた「ニチイ祭り」を通じて地域との関係も徐々に開かれ、子供たちが遊びに来てくれたり、近隣の方から花をもらうこともあります。中区にあるグループホーム同志が協力し合い、互いの運営推進会議に出席し意見を出したり、職員の交換研修でスキルアップを図り、利用者同志の歌合戦も行うなど、地域の情報交換を含め交流を図っています。職員は温泉の入浴剤を使った「お楽しみ入浴」やおやつ作りや外食を楽しむレクリエーションを通じ、利用者が楽しみながら生活出来るよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの理念を1日2回申し送り時に唱和している。理念の中に『喜怒哀楽を大切に』というフレーズがあるが、スタッフ間で周知できている。ただ地域との交流は理念には入っていません。 | 職員の総意で作上げた理念は、第二の我が家として利用者と職員が何でも言える関係でありたいとの思いが込められています。理念は常に会議の中で振り返りや確認を行ったり、不定期に職員にアンケートを取り、改善が必要かどうかを見直しています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域との交流は些細なものが、少しずつは増えてきた。『ふれあい喫茶』に出かけたり、近くのグループホームとの交流もスタートした。散歩時には積極的に挨拶を心がけ会話をしている。年1回地域の盆踊りへの参加させてもらっている。2年前から年1度のニチイ祭りで地域の子供さんが遊びに来てくれた。時々トイレを借りに来る子供さんもいた。入居者様が近所の人に助けられたこともある。 | 2年前から始めた「ニチイ祭り」を通じて徐々に地域との関係が出来、花を届けてくれたり、子供が不意に訪ねて来こともあります。また運営推進会議等で情報を得て、盆踊りや地蔵盆に参加しています。中区のグループホームが集まり、利用者同士の交流も行われています。また、現在小学校に交流を働きかけています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々に向けて発信として2年前から年1回行なう『ニチイ祭り』でチラシを町内に配布し少しでもホームの存在を知ってもらうため『相談窓口』を設けている。近隣の方から相談を受けたこともあった。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月毎の運営推進会議で報告をしている。問題が生じた場合は貴重な意見をもらい、できる事は実践している。近所で行っているふれあい喫茶も運営推進会議で教えてもらった。また同じ中区内のグループホームの管理者も参加してくれているので情報交換の場にもなっている。今年度から地域の民生委員さんの協力も参加してくれるようになった。今後はスタッフも参加できる勤務体制作りが目標である。 | 運営推進会議は、地域や行政以外に多くの家族や他グループホームの管理者も参加し、時には協力医や看護師の参加も得て開催しています。事業所からの報告の他、参加者から医療や防災、救急の対応について助言をもらったり、地域の情報を得るなど、有意義な会議となっています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 密な関係には至っていないが、管理者は中区基幹型包括支援センターが主催している地域への認知症の啓蒙活動にできるだけ参加するようにはしている。 | 市担当者とは法人担当者が一括窓口になっています。また地域包括支援センターが運営推進会議議事録の提出先となっているため、連絡の機会が少ないのが現状ですが、ケアマネジャー連絡会で顔を合わせたり、研修の情報を得たりしています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束はしていない。玄関も施錠していない。ただ夜間はフロア入り口・玄関は施錠している。身体拘束について年1回研修を行なっている。ホームでは身体拘束に関する委員会は作っていない。 | 年に一度、事業所内で身体拘束について全員で研修を行っており、事例を用いてわかりやすく説明しています。日中は施錠せず、出入り口のセンサーが鳴る前に職員が対応するよう心がけています。また外に出られた場合は制止することなく、職員が後から見守り一緒に散歩に出る等の支援をしています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年1回は虐待についての研修を実施している。暴言・暴力は明らかに分かるが、何気なく言っている些細な言葉でも人を傷付けるので、関わり方も個々に勉強し良い空間環境作りに力を入れる必要がある。 | | |

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度に関する研修があれば管理者が参加している。スタッフにも学ぶ機会を与えるのがホームの課題である。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 噛み砕いた言葉で説明するようにはしている。途中で質問はないか確認するようにしている。しかしなかなか一度で理解は得ていないと思われる。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設けている。また運営推進会議への参加を働きかけているが、なかなか参加につながらないのが現状である。 | 家族の意見や要望は、来訪時や運営推進会議の中以外にも、電話や手紙でも聞いています。居室の清掃についての要望が出された時には、リーダー中心に検討し、掃除の手順を変える等改善し、運営推進会議でも報告する等、その都度サービスの向上に活かせるよう取り組んでいます。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 今年度から環境・行事・食事と各委員会活動に重点を置くようにしている。各委員会活動を通じてできる事から実行しているが、スタッフからの提案・意見が少ないのが課題である。スタッフの意見を引き出せるような環境作りが管理者としての目標である。 | 毎月の全体会議やユニット会議で職員の意見を聞いています。その際、意見を言いやすいように4～5人のグループに分けて意見を聞いています。委員会活動を通じて、職員同士が意見や提案を出し合うことが多くなってきています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 外部研修への参加が、社内的になかなか認められない。ただ昨年度から同じ中区内のグループホームの交換研修に参加しており、当ホームしか知らないスタッフが多いなか、『他を知る』ことでモチベーションが上がることを期待したい。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 今年度から人員不足もあり2ヶ月毎に勉強会をしている。以前は新人研修を3ヶ月間実施していたが人員不足でできなくなった。現在、新人に関しては実際に働きながら伝え、育てる取り組みをしても、当事者が深く心に留めなければ実行できない現状である。外部研修に関しては上記の通りである。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 1年前から認知症の啓蒙活動を中区内のグループホームの管理者としており、活発に交流をしている。空き状況や問題点等も相談できる関係作りができている。『中区グループホーム対抗歌合戦』という行事も2回行ない、第2回目はスタッフも参加した。上記の交換研修にもできるだけ参加していきたい。 | | |

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ケアプランはセンター方式を活用している。不安な思いを解消できる関係作りを心掛けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に家族様にセンター方式を記入してもらっている。なかなか話できていない家族様もいる。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人の状態を把握し、必要に応じて福祉用具を導入するなど対応をしているが、社内的なこともあり迅速的な対応ではない。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生経験が豊かな入居者様に色々な事を教えてもらっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 昔話で聞いたことを家族様に伝えるようにしている。月1回写真を添えたお便りを送って近況報告をしている。ご本人がお好きな巻き寿司を持ってきて食事介助して下さる家族様もおられる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | なかなかできていない。 | 友人や教え子等の来訪が多くあります。訪問時には和室や相談室を提供しています。また以前大正琴を習っていた利用者は現在も友人の迎いで練習に通っています。家族の協力を得て墓参りに出かけたり、馴染みの美容院にも行っています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席の配置等を考慮し、2階の入居者様との交流も盛んである。なるべく入居者様同士が触れ合えるようにさり気なく他の入居者様のお手伝いをしてもらったりしている。 | | |

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了前にお伝えしているが現状は相談等はない。退去後も病院へお見舞いに行くこともある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一応ご本人の希望を聞くようにしているが、困難な場合はスタッフで話し合い検討している | 入居の際は家族に利用者の情報を指定の用紙に記入してもらい、思いや意向を把握しています。日々の会話では、家族の話題を出すことで利用者が話しやすい雰囲気となり、したい事や好きな事を話してもらうこともあります。聞いた内容は日誌等にも書き留め、職員間で個々の暮らし方の希望等を検討しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に家族様にセンター方式を記入してもらっている。その後もご本人に聞いた事を気に留めセンター方式に追記するようにはしているが、全て把握しきれていない。入居者様のご両親・ご兄弟等の名前は、把握して会話に入れるように心掛けている。現状は担当入居者様の事の把握に努めている段階である。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | センター方式に記入するが、実際記入すると知らないことが多い。業務に追われ気が足りない面がある。現状は担当入居者様の事の把握に努めている段階である。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスを行ない、好きな事やできる事を行なうようにしているが、介護計画書への反映には至っていない。業務に追われスムーズな介護計画書の変更が行なえていない。 | 面会時に家族の意見を聞き、サービス担当者会議を開いて介護計画を作成しています。必要に応じて医師の意見を計画に反映させています。3ヶ月毎にカンファレンスにおいて担当者中心にモニタリングし、評価しています。6ヶ月毎に再アセスメントし計画の変更に繋げています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記入漏れもあるが、スタッフ間で情報共有はできている。ただ気が足りない面がある。また介護記録の見返すこともあまりできていない。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個別外出やお楽しみ入浴等新しい試みも行なっている。ただ会社として制限がある事もあり、個人の事業所よりは柔軟性に劣る。 | | |

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域との交流は、ほんの少しずつだが増えてきた。ニチイ祭り・盆踊り・公民館でのふれあい喫茶に参加など・・・ | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医との話し合いが必要な場合は、家族様と時間調整し機会を設けている。 | 入居時に家族等と相談しかかりつけ医を決めていますが、24時間対応もあり、全員が事業所の協力医を利用しています。協力医は2週間毎に往診があり、歯科やマッサージ師の往診を受ける事も可能です。専門医の受診は家族が付き添い、受診後に情報を得ています。日常の健康管理は週に一度の訪問看護師が行っています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携体制をとっているため、月曜日に訪問看護師が来てくれている。日常の健康管理、相談を気兼ねなくしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | お見舞いに行っている。管理者と主治医で連携している。入院に関してはホームの主治医にお任せしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | なかなかお元気段階では、そういう話が出ていないのが現状である。その時が来たら主治医を交え話し合いをし、スタッフ間でも情報共有できている。 | 入居時に看取り指針を示して説明し、医療行為は出来ないことを伝えていきます。重度化した際には再度医師や家族、職員がリスクも含め話し合い、方針を決めています。家族が毎日訪れ、職員は看護師から指導を受け、チェック表を作成して看取りを行った経験があり、職員も方針を共有しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会(研修)を通じて身に付けるよう努めているが、即実践できるかという点で難しい。何回も研修の機会を設けていきたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 2ヶ月毎に避難訓練を実施している。 | 年に一度、法人内の事業所も参加して消防署の指導を受け、初期消火や通報、避難訓練を行っており、近隣に案内状も配布しています。また事業所独自でも2ヶ月毎に昼夜や地震を想定して避難訓練を行っています。備蓄も用意し、来年は地域の防災訓練にも参加する予定です。 | |

ニチケアセンター泉ヶ丘(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 心掛けているが、忙しかったりすると口調がきつくなる時もある。言葉かけは難しいと感じる。声のトーンを押さえ乱暴な言葉使いをしないように心掛けている。書類はイニシャル表記・排泄時の声かけの大きさには気を付けている。 | 管理者は日々の業務の中で、利用者の立場になって接するよう職員に伝えていきます。家族の了承を得て、利用者が好む呼び方で接しています。リビングに面したトイレには内側にカーテンを付けるなど、利用者のプライバシーに配慮したケアを心がけています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 表情しぐさを気にかけて声かけし傾聴するようにしている。完全ではないが、希望を聞いたり、できるだけ自己決定してもらえるよう努力している。話やすい環境づくり、井戸端会議的な感じにする工夫をしている。無理強いはしない。食事介助の際は何から食べるか訊ねている。自分で決められない方はスタッフがご本人に代わり良いと思うことをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 居室で過ごされている入居者様にはお手伝いをお願いしに行かないようにしている。忙しい時は業務を優先してしまっている時もある。何が言いたい表情をしていたり不安そうであるなら寄り添って声かけをし傾聴している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝整容しており入浴時も整容している。身だしなみは気にしているが、おしゃれに関しては外出時、イベント時のみになってしまっている。普段からおしゃれができるように支援ができていない。シャツの襟、裾の乱れがないように心掛けている。散髪は訪問美容を利用中。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様の好みを聞いて献立に取り入れるようにしているが、一緒に献立を考えるまでには至っていない。入居者様には盛り付けや後片付けに参加してもらっており、月1回のお食事会・おやつ作りでスタッフと一緒に調理を楽しんでもらえるように工夫している。調理に関しては業務追われスタッフが全てしてしまうこともある。 | 利用者の希望を織り交ぜ献立を立て、業者から食材が届けられています。台所に入り調理をする利用者もいて、出来る範囲で味見や盛り付け、配膳等を一緒に行っています。おやつを皆で作ったり、インスタントラーメンやハンバーガーを食べることも利用者の楽しみにしています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 好みの飲み物を提供し水分量の確保に努めている。飲み物以外でも紅茶ゼリーを提供している。水分が少ない人は申し送りで情報共有し水分補給をしている。日中水分が少ない人は夜間も水分補給をすすめている。水分の目標は1500ccである。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自立の方はご本人に任せている。食後口腔ケアを行なっているが人によっては完全にできていない。定期的な入歯の消毒。入居者さんによって訪問歯科を利用している | | |

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のパターンが理解できていない。食前・食後にトイレ誘導を行い、それ以外でも臨機応変にトイレ誘導をしている。目が届いていない面もある。排泄の失敗時は傷付けたくないような声かけを心掛けている。 | 利用者の表情を見てトイレの誘導を行い、日中はトイレで排泄出来るよう支援しています。夜間は睡眠を優先し、ポータブルトイレやおむつを利用している利用者もいますが、カンファレンスで排泄の状況について検討し、個々のタイミングに合わせてトイレに行ける支援を心がけています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | あまりできていない。腹部のホットタオルもご本人が気にされた時のみになっている。水分補給をしっかりと実施し、ラジオ体操で運動をするようにしている。。下剤に頼っているところが多い。もっと食事やおやつにさつまいも・バナナ取り入れるように工夫したい。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 順番・時間帯など職員の都合でしてしまっている面もある。気分良く入浴して頂くためその人のペースに合わせて入浴でない日も希望される方は入浴してもらっている。毎月2回お楽しみ入浴を実施し入浴剤等でいつもと違う雰囲気を楽しんでもらえるように工夫している。 | 毎日入浴可能としており、利用者には午後から夕方の好きな時間に入浴してもらっています。希望があれば夜間も可能で、職員は利用者が週に3～4回は入浴できるよう支援しています。有馬温泉や草津温泉などの入浴剤を利用して入浴が楽しみになるよう工夫しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安心して就寝して頂けるように声かけや穏やかな声のトーンを心掛けている。その人の状況により起床時間を遅めたり、日中に臥床する時間を設けている。人によって安心して休めるように共有スペースでも休んでもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局からの処方薬の説明書に目を通して内容を理解するように心掛けているが、副作用までは理解できていない。新しい処方があった時のみ症状の変化を気にするだけになっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 決められた食事以外でも提供するようにしている。気分転換は、体操・散歩ぐらいしかできていない。時間があれば歌を唄うことが多い。壁に行事内容を貼り出したりしている。洗濯たみや食事準備は皆で一緒にできるように心掛けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気候の良い時期の個別外出では、ご本人が食べたいと話されていたことを考えお店を選ぶようにしている。地域の方々と協力しながらということとはできていない。近くの公園までしか行けていない。 | 隣が公園であり、気候が良ければ毎日散歩に出かけています。初詣や花見等、家族にも声をかけ参加してもらっています。個別で買物や外食にも出かけています。また事業所のウッドデッキで食事やお茶を飲んだり、庭の草木に水やりする等、季節感を味わってもらえるよう支援しています。 | |

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | できていない。基本的にお金は所持できない。どうしても所持したいと希望された方は、家族様の了解のもと自己責任で所持する方もいた。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | あまりできていない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 壁に季節の絵を貼ったり、飾りやその季節の花を置くことによって季節感をだすようにしている。温度も適時調整している。 | 玄関や庭に草木を植えたり、リビングの飾りつけを通じて、利用者に季節を感じてもらっています。ウッドデッキや和室、廊下の隅に置いたソファや各所に置かれた椅子など、他の利用者と談笑したり一人でゆっくり過ごすなど、自由に過ごせる空間を用意しています。天気の良い日はベランダに布団を干し、強い西日にはカーテンで光を調節するなど、家で暮らしに近づくような支援を心がけています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 席の配置を気を付け仲の良い方やその人に合った配置にしている。席替え後は入居者様の様子を気にかけている。楽しく会話できるように配慮している。所処に椅子を配置し、気が向いた時に自由に座れるように工夫している。好きな懐かしい音楽をリピートでかけるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | まだまだ工夫が足りない面が多い。家族様の写真や今まで使用していたものを置いている。入居者様によっては、安全の為に模様替えをした。 | 入居時に自宅を訪問し、馴染みの品を持参するよう提案しています。クローゼットが用意された居室に、ベッドや机、椅子、位牌、テレビなどを持参し、床に布団を敷いて休んでいる利用者もいます。以前の賞状や家族が描いた絵、好きな猫の写真やタペストリーを飾るなど、独自のスペースを作っています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | まだまだ工夫が足りないように思う。椅子やテーブルの配置に気を遣い動きやすいように動線を作っている。足元等、十分に移動できるスペースを確保し、自由に移動ができるようにしている。 | | |